

◆優秀賞◆

本当の思いやりとは

富士見小学校 六年

石井 歩音

「思いやりを持つ」ということは、どういうことなのだろうか。

私は交通安全教室などで、信号が青になったらわたって、赤になったら止まると教わったが、これは当たり前のことではないと思っている。なぜなら、赤や青を目で見分けられることが当たり前ではないからだ。

私の家の周りには、音響式信号が三か所ある。音響式信号とは、目が見えない人が音で進むか止まるかを判断する信号だ。神奈川県警察のホームページで調べてみると、令和七年五月末時点で、神奈川県内には音響式信号が八百十六か所あり、平塚市内には二十五か所あることがわかった。私は音響式信号は、二十四時間音が鳴っていると思っていた。調べていくうちに、全国の音響式信号の八割以上で鳴る時間に制限があることがわかった。そして、信号が鳴らない時間帯に死亡事故も発生していることが新聞を読んでわかった。鳴る時間に制限がある理由は、うるさいなどそう音の苦情が原因だそうだ。

確かに、一ばん中音が鳴っていたら、うるさいと感じるかもしれない。しかし、想像をしてみてもほしい。もしも、自分が目が見えない中で、音もなく車が行きかっている信号をわたるとしたら、あなたは思うか、どう感じるだろうか。私だったら、こわくて一歩もわたることができない。多分、ほとんどの人が私と同じように、こわくて歩くことができないので

はないだろうか。私達は夜や早朝に外を歩くこともあるが、目が見えない人は、夜や早朝に外を歩いてはいけないのだろうか。このように考えてみると、時間制限がない音響式信号が必要だとわかる。

私のお母さんが、

「マジョリティー（多数派）が、世の中の圧倒的な強いものになってはいけない。」

とよく言っている。私はずっとお母さんが言っている意味がわからなかった。でも今は、世の中全ての人がそれぞれ相手の立場を考え、自分以外の人のことを思いやるということのかな、と少しわかる。

二年生、三年生、五年生と三年間、私は同じ担任の先生だった。先生は毎日私達に、

「思いやりを持つて」

と言っていた。私達はクラスの友達のことを思い、相手の立場になって考えるようにして、毎日友達と過ごしていた。大人は子どもに思いやりを持つてというが、大人は本当の思いやりを持っているのだろうか。大人になると思いやりを忘れてしまうのだろうか。私は、そんな大人にはなりたくない。周りの人に対して想像力を働かせて、相手を思いやり、自分の当たり前を当たり前と思わずに、人に寄りそえる大人になりたい。

そして、私が大人になった時、社会が今よりだれにとっても優しくなっていたらいい。私は将来、そんな街に住みたい。